

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月11日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874200413		
法人名	社会福祉法人 石下福祉会		
事業所名	グループホーム 千代川さくら館	ユニット名	1
所在地	〒304-0823 茨城県下妻市五箇574		
自己評価作成日	平成25年3月4日	評価結果 市町村受理日	平成25年7月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0874200413-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0874200413-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年4月23日	評価確定日	平成25年6月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>力を入れている点、アピールしたい点は、3点あります。まず入居者と一緒に土づくりから行った野菜を献立に織り交ぜながら、お年寄りの“幼い頃の味”を大切にし、一緒に調理して食していることです。</p> <p>また、その献立は、併用している特養の栄養士に栄養チェックしてもらっているので安心です。摂取量もチェックして、脱水や低栄養状態、過栄養にならないよう注意もしています。</p> <p>次に入居者とその家族、職員の笑顔と笑い声が絶え間の無い事業所であることです。</p> <p>入居者とその家族、職員の昔ながらの“なじみの関係”を築き、一人ひとりを大切にし、共に支え、助け合い、いたわりあいながら暮らしています。最後に入居者の入浴は、できるだけ希望に沿い、2日に1回は入っていただくようにしています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は緑が多く自然豊かな環境に立地し、利用者は四季の移り変わりを日々の生活の中で感じながら、職員の支援のもと安心して暮らしている。</p> <p>管理者は職員と日頃から何でも話せる関係を築き、意見や要望を聞いて働きやすい職場の環境づくりにも力を入れているほか、職員同士も信頼関係を築いている。</p> <p>職員は利用者と一緒に土づくりから行った野菜を収穫して食材に取り入れるなど、食事が楽しみなものになるよう工夫している。</p> <p>地域のボランティアや保育園児などを定期的に受け入れ、利用者や家族等、地域の人々と交流ができるよう支援している。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員会議等で管理者および職員は常時確認している。利用者の思いを常に考えたケア計画と実践、その振り返りをケア検討会議、職員会議で話しあって、必要ならばケア計画の見直しを行うなど、共通理解のもと利用者をサポートしている。	法人の理念のほかに、管理者と職員で協議して地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、玄関や事務所に掲示している。 管理者と職員は職員会議などで唱和して共有を図り、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。たとえば、お祭り、散歩、買い物による地域の人との交流を通じ顔なじみ関係を作っている	自治会には加入していないが自治会主催の祭りなどに招待され、利用者は職員と一緒に参加している。 利用者は散歩や買い物時に地域の人々と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。 歌やハーモニカ演奏、紙芝居などの地域のボランティアや地域の保育園児を定期的に受け入れ、利用者が地域の人々と交流ができるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流スペースでボランティア慰問会、夏祭り、駐車場で花火大会等の開催を地域代表の方に事前に連絡し、地域の方々に参加していただいている。そして認知症高齢者の方と一緒に行動・触れ合ってもらうことで認知症への理解やいざというときに支援をいただけるようなじみ関係を築いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、家族代表者、身近な地域代表者、行政の方とで開催している。皆さんから率直な意見をお話しいただける場として有効に活用させてもらっている。たとえば、「さくら便り」の発行、職員研修の充実、行事の開催の増加など。	運営推進会議は家族等や市職員、民生委員、区長、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の活動や行事予定、外部評価への取り組みなどを報告するほか、行政から連絡事項を聞いたり、出席者と活発な意見交換を行っている。 会議で出た意見等は職員会議で検討し、サービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の空室状況、感染症の地域状況や予防に関する情報提供、ケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は日頃から市担当者に電話連絡をしているほか、市担当課にも積極的に足を運び、事業所の空室状況やケアサービスの取組みを伝えたり、地域における感染症の現状や予防に関する情報を得るなど、連携を図りながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の内容とその弊害について理解しており、居室や玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者は身体拘束廃止マニュアルを作成するとともに、職員が身体拘束に関する外部研修や内部研修を受講する機会を設けている。転倒防止のためやむを得ず車いす用抑制帯を使用している利用者があるが、家族等に説明して同意を得るとともに、定期的に見直しの検討をしている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は外部研修および内部研修に参加して学習機会を持っている。また、その内容を職員会議において、参加しなかった職員にレクチャーし、その資料を職員がいつでも活用できる場所（事務所）に保管している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は外部研修および内部研修に参加して学習機会を持っている。また、その内容を職員会議において、参加しなかった職員にレクチャーし、その資料を職員がいつでも活用できる場所（事務所）に保管している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者とその家族に口頭と文書を持って十分説明し、不安や疑問点を尋ね、理解していただいたことを確認し、納得した上で同意のサイン、捺印をしてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回外部評価を行い、その結果をいつでも閲覧できる玄関に配置している。家族が集まりやすいクリスマス会を開催した折に満足度アンケートを実施し家族の思いを確認する機会を持っている。また、2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、家族側から率直な意見をもらい（意見箱を玄関に設置している）、運営に反映させる機会を設けている。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等からは来訪時や運営推進会議、行事時などに意見や要望を聴くよう努めているほか、年1回無記名の家族アンケートを実施し、出た意見等を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を受け入れやすい雰囲気と関係を構築している。打ち合わせにおいて、職員は率直な意見を言える機会を設け反映させている。	管理者は日頃から職員に話しかけてコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を出し易い環境を築いているほか、個々の事情を汲み入れた働き易い職場の環境づくりに努めている。 月1回の職員会議で職員の意見や要望を聞いており、行事の提案や畑の作物の変更、勤務体制の交換など、出た意見等を検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう、給与水準、労働時間、やりがいなど職場環境・条件の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の研修を積極的にすすめている。月1回の法人内で研修する機会、外部研修に参加させるなど積極的に働きながらスキルアップできる環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、管理者や職員が特養千代川さくら館との交流・合同研修会等で他の地域の同業者と交流する機会を持ち、勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時からグループホームの生活に慣れるまで、本人が困っていること、不安なこと、要望等に特に注意して耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等をこちらから尋ねるとともに、常に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等との話し合いをもち、その話の中で「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、本人の今までの暮らしの中から学んだり支えあう関係を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、喜怒哀楽をともにし、本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで使い慣れた物、大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、電話・文通などの連絡の支援に努めている	入居時に利用者や家族等から話を聴いたり、基本情報シートを活用し、利用者のこれまでの生活歴や馴染みの人や場所を把握している。 利用者の馴染みの人がいつでも気軽に来訪できるようお茶を出して接待するほか、馴染みのラーメン屋やドライブインに同行するなど、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が楽しく関わり合い、お互いに支え合えるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や自宅に戻るなどしてサービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、本人や家族の求めに応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討して家族の協力をお願いしたり、職員の関りを見直したりして希望に沿うようにしている。	職員は日常のかかわりや会話を通して利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めるとともに、職員会議で話し合っって共有している。 意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中での表情や行動から、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を、入浴のリラックスした時やさりげない会話の中で把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。たとえば朝のバイタルチェック、排泄状況などで体の状態を朝の整容までの様子から把握し、職員間で連絡を取り合いその日の生活のサポートを決めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。毎月のケア検討会議、家族の面会時など常に本人の思いを尊重するようなケアを考慮し介護計画を立てている。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れるとともに、週1回のケース検討会議や月1回のケアプラン検討会議で検討して計画作成担当者が作成し、6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録（介護記録）に記入し、職員間で情報を共有しながら（職員会議・ケア検討会議にて）、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化（個別ケア：外出、なじみの店への外食、買い物など）に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が開催する催し物（菊人形、ポピー祭り、市の文化祭など）を把握し、入居者が参加できるよう支援している。また地域の保育園児との交流を楽しんだり、消防署と合同開催する消防訓練に参加するなど豊かな暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、入居前から馴染みのかかりつけ医に受診することができる。納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援しているが、殆どの利用者が協力医療機関の医師を主治医としており、通院は職員が同行するとともに、受診結果を家族等に報告している。 併設する特別養護老人ホームの看護職員による日常の健康相談や医療行為の支援を受けられる体制になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護職員に相談できる関係を構築しているため、日常の健康相談や医療行為の支援を得ることができる。そのため、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるようになっている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。併設した特養とともに週に1回、回診日があり、必要ならば受診できる体制づくりをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者・家族と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者・家族と共にチームで支援に取り組んでいる。また、職員の不安を解消するため、研修の充実を図っている。	契約時に利用者や家族等に法人の現状の方針は看取りはしない旨を説明するとともに、重度化した場合や終末期のあり方について事業所ができることを説明し、段階に応じて同意を得ている。 看取りの要望が出た場合に備えて、事業所独自の看取りに関する指針やターミナルケアマニュアルを作成し、職員研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、マニュアルをもとに、シミュレーションしている。具体的には、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けるよう努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、〔月1回の避難訓練の実施〕地域との協力体制を築いている	年1回消防署立会いの総合訓練を併設の特別養護老人ホームと合同で近隣住民の参加を得て実施しているほか、月1回夜間や地震を想定した事業所独自の避難訓練を実施している。 避難訓練の実施記録を作成し、訓練で明らかになった課題を全職員で話し合い、共有して次回の訓練に活かしている。 災害時に備え食糧や飲料水を備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は利用者の個性やこだわりを把握し、一人ひとりの人格を尊重しながらプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は併設する特別養護老人ホームの事務所にある鍵のかかる戸棚に保管し、情報の漏洩に留意している。 個人情報を使用する場合は家族等の同意を得るなど、適切な取り扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれ〔理髪、毛染め、買い物〕ができるように支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。庭で一緒に作った畑の野菜などを調理して食すことで食べる意欲を促すようにしている。馴染みの店への外食なども実施している。	利用者の意見を取り入れ、職員会議で1週間から10日間の献立を立てるとともに、食材は併設する特別養護老人ホームの厨房に注文し、まとめて業者に発注してもらっている。 自家菜園で収穫した野菜も食材に取り入れ、利用者と職員が一緒に調理をして同じ食卓を囲みながら温かい食事を摂っている。 利用者は盛り付けや配膳、後片付けなどの役割を担いながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導し、トイレで排泄ができるように支援している。 夜間はおむつを使用している利用者でも、日中は紙パンツを使用して声かけ誘導し、トイレで排泄ができるように支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週4回を基本としているが、利用者の希望にそって毎日の入浴や希望の時間に合わせた入浴も支援している。入浴を拒む利用者には強要せずに時間をずらしたり、声かけする職員を替えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。認知症や廃用性症候群が進行しない程度に本人の自由な生活時間をすごせるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。また服薬の支援については、特養の看護師およびかかりつけ病院と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。買い物が好きな人のために介助しての外出、歌が好きな人などのためにCDや歌帳を用意する、書道、季節の催し物に外出したりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し出かけられるように支援している。	利用者は天気の良い日には事業所周辺を散歩したり、自家菜園の畑仕事を職員と一緒にしており、職員は利用者の五感を刺激したり、四季の移り変わりを楽しめるよう支援している。 テラスにテーブルや椅子を配置し、利用者がいつでも気楽に外気浴を楽しめるよう支援したり、事業所の車両を利用して外食やショッピングセンターへの買い物、花見などに出かけ、気分転換ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している 外出の際は、金銭間違いがないように必要に応じた見守りなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室および食堂は一般家庭照明を用い窓の日差しはカーテンなどで調節し、職員もゆっくり話すなど、音の大きさや光の強さに配慮し、居心地よく過ごせる。玄関は四季の花があり、家族や入居者にとって親しみやすく安心して出入りできる。	2ユニットそれぞれの居間兼食堂が中庭に面して隣り合わせに建っており、利用者は自由に行き来をしている。 居間の大きな窓からはテラスや中庭が続いており、利用者が外気浴をしたり、四季の移り変わりを感じながら居心地よく過ごせる環境となっている。 居間の壁には利用者と職員と一緒に制作した1ヶ月毎の大きなカレンダーが掛けられており、温かい空間になっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。歌の好きな方がたのテーブルを作ったり、ベランダ、玄関にベンチを用意しめいめい好きなようにすごせるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団はなじみの物を持ってきて使用してもらっている。今まで本人が使用していたものや思い出の品などを持ち込み、居心地よく過ごせる工夫をしている。	利用者は居室にテレビやテーブル、椅子など使い慣れた馴染みの物品や位牌など大切な物品を持ち込んだり、家族の写真などを飾っており、居心地よく過ごせる場所となっている。 居室に洗面台が備え付けられており、利用者は朝の身支度を自分で整えるなど、居心地よく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーである。廊下は車椅子がゆったり通れる広さが確保されており、高齢者に使いやすい位置に手すり、コンセントなどがつけられている。自動火災報知通報装置設備のほか安全に暮らせるよう工夫されている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 千代川さくら館

作成日 平成25年7月4日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		次のステップに向けて期待したい内容に記載はありませんでした。			
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。